
草鹿やちるの日常物語

寿々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

草鹿やちるの日常物語

【Nコード】

N8993A

【作者名】

寿々

【あらすじ】

十一番隊副隊長のやちるちゃんのはなしです。死神キャラがたくさん出てきます。

ソウル・ソサエティには、護廷十三隊と言う、死神たちがいる。
一〇十三までの隊があつて、その隊長・副隊長は化け物なみの恐ろしさ。

その護廷十三隊の中でも、最強を謳われている男がいる。
更木剣八・・・

そしてこれは、その副隊長、草鹿やちるの日常物語・・・。

「けーんちゃーん！おはよーっ！」

やちるの日課といえば、剣八の背中に乗って、セイレイテイ中を走り回ること。

そして、強い奴を、見つけること。

「隊長格じゃねえと俺は戦わねえからな」

「じゃ、隊長さんたちを見つけるねっ！！」

やちるは剣八より鼻も利くし、霊圧だつて探れる。

「けーんちゃーん！いたよーっ！こっちこっち！」

やちるが一番に見つけた標的は、狛村左陣だった。

「更木・・・わしになんのようだ」

「やちる。この辺にはこいつしかいなかったのか？」

「うん。こまこまの霊圧しかわかんなかったよ」

「ちよいと手合わせ願おうか」

「更木・・・貴様。何を考えている・・・」

やちるは2人のやり取りをじいじと見つめていた。

（こまこまと剣ちゃん、いっつも仲悪いんだもん・・・）

だから、いつの間にか喧嘩が始まってる。

狛村も負けず劣らず強いから

互角の喧嘩で

刑軍がかぎつけてくる。

「貴様ら・・・そこで何をしている？」

「・・・碎蜂・・・！」

やちるたちの目の前に現れたのは、二番隊隊長・碎蜂。

「ソイちゃん。ドーしてここにいるの？」

碎蜂は、ギロリと目をむいて、やちるを睨んだ。

「その呼び方はやめろ。あと、これだけの霊圧を放つての戦いなど、誰でも気づく」

「ふーん。ソイちゃん。すごいね！」

「その呼び方はやめろ！！！！！！」

剣八の二番めの標的は、碎蜂になった。

「こまこま、帰っちゃうの？」

狛村は何も言わずに、そこから立ち去った。

「こまこま！また、遊んであげてね！！！！」

やちるは、狛村の後ろ姿に叫んだ。

「やちる。なにぼーっとしてんだ。とつとと行くぞ」

「終わったの？」

「ああ。弱すぎて話になんねえ」

「ふうーん」

（！ちよーちよー！）

やちるは蝶がスキだ。多分・・・

「剣ちゃん！つぎあっち！」

やちるは剣八を使って、好きなところにも行ける。

（ちよーちよ！ちよーちよ！）

「おい・・・ほんとにこつちなんだな・・・」

「こつち！こつちいゝゝつ！！」

蝶を追い掛け回しているうちに、空き地にたどり着いた。

そこには、八番隊隊長京楽春水がいた。

「おんやあ。御二方、こんなとこまでどうしたの？」

「今度は風流きどりかよ・・・。ろくな奴がいねえじゃねえか」

（ちよーちよ・・・。どこ行っちゃったのかな・・・）

やちるの視界から完全に蝶は消えて、代わりに二人の戦いの姿が見えた。

「草鹿・・・。お前、ここでなにしてんだ」

声が出たほうに向くと、そこには、十番隊隊長日番谷冬獅郎がいた。

「ひつつーだあ。ひつつー！ひつつー暇なら、あたしとあそぼー！」

「その為にきたんじゃないねえ！更木のヤロウが霊圧全開で戦いだすからきたんだ！」

四番目の標的は、日番谷冬獅郎。

同じような戦いが、毎日のように繰り返されて

まるで、草鹿にいたときと同じ。

でも、剣ちゃんが楽しいのなら

あたしはそれでいいんだ

ただの戦いの光景が目映るんじゃない

感情のある戦いが映るのなら

剣ちゃんが楽しいと思える戦いが映るのなら

あたしは、それでいいんだ。

「剣ちゃん。金平糖、ちよーだい」

報酬は金平糖。やちるの好物。

口いっぱい金平糖を含みながら、やちるはにっこり笑った。

（明日も今のままの剣ちゃんできてね。そんで）

「こんぺいと、いっぱい頂戴ね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8993a/>

草鹿やちるの日常物語

2010年10月9日10時53分発行